

082 洗礼者ヨハネの死 イエスを恐れたヘロデ・アンティパス

マルコによる福音書 6 : 14~29、マタイ 14 : 1~12、ルカ 9 : 7~9

14 イエスの名が知れ渡ったので、**ヘロデ王** (=ヘロ大王の息子、ヘロデ・アンティパス Herod Antipas →ガリラヤトペレアの属領主 [国主=テトラーク：ギリシア語] で王ではない、在位：BC4~AD39、マルコのみ、「ヘロデ王」と皮肉を込めて呼んでいる) の耳にも入った。人々は言っていた。

「洗礼者ヨハネが死者の中から生き返ったのだ。だから、奇跡を行う力が彼に働いている。」

15 そのほかにも、「彼はエリヤだ」と言う人もいれば、「昔の預言者のような預言者だ」と言う人もいた。→エリヤは、イエスが生まれる約 800 年以上前のイスラエルの預言者。後の預言者たちは、神がエリヤを再び地上に遣わし、神の裁きを人々に警告して、メシアに対する道備えをすると期待した (マラキ 3 : 1~5)。

16 ところが、ヘロデはこれを聞いて、「わたしが首をはねたあのヨハネが、生き返ったのだ」と言った。17 実は、ヘロデは、自分の兄弟フィリポの妻 (でヘロデ大王の孫娘である) ヘロディアと結婚しており、そのことで人をやってヨハネを捕らえさせ、牢につないでいた (→ヨセフスによると「マケラスの砦」)。18 ヨハネが、「自分の兄弟の妻と結婚することは、律法で許されていない」とヘロデに言ったからである 19 そこで、ヘロディアはヨハネを恨み、彼を殺そうと思っていたが、できないでいた。20 なぜなら、ヘロデが、ヨハネは正しい聖なる人であることを知って、彼を恐れ、保護し、また、その教えを聞いて非常に当惑しながらも、なお喜んで耳を傾けていたからである。



21 ところが、良い機会が訪れた。ヘロデが、自分の誕生日の祝いに (自分が率いる) 高官や将校、ガリラヤの有力者などを招いて宴会を催すと、

22 **ヘロディア (ヘロデ) の娘** (=サロメ) が入って来て踊りをおどり、ヘロデとその客を喜ばせた。そこで、王は少女に、「欲しいものがあれば何でも言いなさい。お前にやろう」と言い、23 更に、「お前が願うなら、この国の半分でもやろう」と固く誓ったのである。

→当時、ローマ帝国が支配する、ガリラヤを統治していたのは、地元のユダヤ人高官、あるいは駐在中のローマ人指導者たちであった。

→娘=コラシオン (ギリシア語) : 12~14 歳の結婚可能な年齢の女性

24 少女が座を外して、母親 (のヘロディア) に、「何を願いましょうか」と言うと、母親は、(間髪を入れず)「洗礼者ヨハネの首を」と言った。

25 早速、少女は大急ぎで王のところに行き、「今すぐに洗礼者ヨハネの首を (宴会のメニューのように) 盆に載せて、いただきとうございます」と願った。

26 王は非常に心を痛めたが、誓ったことではあるし、また客の手前、少女の願いを退けたくなかった。→支配者は有言実行が求められたので、ヘロデは、(面子=メンツを保つためにも) 大事な客たちの前で約束したことを撤回できなかった。

27 そこで、王は衛兵を遣わし、ヨハネの首を持って来るようにと命じた。衛兵は出て行き、牢の中でヨハネの首をはね、28 盆に載せて持って来て少女に渡し、少女はそれを母親に渡した。

29 ヨハネの弟子たちはこのことを聞き、やって来て、遺体を引き取り、墓に納めた。

→当時の墓は、丘陵の石灰岩を切り取り、掘って作られた。入口は、大きな丸石が用いられた。

【参考】ヘロデ家家系図(一部)

